

仕合わせの



第201号
H. 30. 12. 1
(毎月1日発行)

仏縁の尊さ

住職 谷川寛俊

去る平成24年4月(今から6年前)のこと、本堂の右手に新たに『三十番神(さんじゅうばんじん)様』を、勧請(かんじょう)お祀り)させて頂きました。この三十番神様という存在は、日替わりでご守護いただく日本の神様の代表格三十柱を指します。また三十一日は法華経の守護神「五番の善神(鬼子母神をはじめとする神様)」が担当守護神に充てられています。

さて、真成寺に勧請させて頂いた三十番神様ですが、作者は馬淵憲峰(まぶちけんぼう)師。馬淵師(大阪府茨木市在住)は、国内トップクラスの仏師です。実は、私の身延山修行中の同期生で、お坊さんでありながら仏師として全国で十本の指に数えられるほどの実力者。師匠がかつて比叡山延暦寺に奉納された三十番神様を参考に創作され、師匠と同じく立像のお姿で、三十柱お祀りさせて頂い

ております。

先日、九州は福岡県より、南真也(35歳)さんと名乗る青年から一本の電話がありました。「突然のお願いで申し訳ありませんが、いま全国にある三十番神様の御朱印(ごしゅいん)を集めている者ですが、真成寺様の番神様をインターネットで拝見しました。このたび5年がかりで、ようやく御朱印が完成致しました。この御朱印を私の宝物として、子々孫々まで継承したいと思い、この御朱印帳を収める小さな御厨子(おぐし)を作りました。そこでお願いですが、この御厨子の裏面に、年月日と三十番神参拝達成の字と、ご住職の名前を書いていただきたいのですが・・・」との事でした。

私とすれば、大変光栄の至りであり「私のような者で宜しければ・・・」と返事をしたところ、早速休みを取って福岡県よりお越しいただいたのです。持参下さった御朱印帳を拝見させて頂いたと、確かに全国津々浦々にお祀りされている三十ヶ所全て参拝されていました。大部分は京都、奈良、三重、滋賀など関西方面

「仕合わせの和」と打ち込んで頂ければ、ホームページにつながります。

編集・発行 玉蓮山 真成寺
編集部 谷川久仁子

TEL・FAX 0765-22-2268

携帯 080-3744-2523
こちらの番号でもお寺につながります。

に点在していますが、遠くは2日の『諏訪大明神(長野県)』・4日の『氣比大明神(福井県)』・6日の『鹿島大明神(茨城県)』など、わざわざ福岡県より出掛けられるのも大変なこととあります。

最近「御朱印ブーム」ということで、時折、真成寺にも御朱印帳を持って参拝される人もいます。また、日蓮宗新聞に掲載されているコーナー「千ヶ寺参りへ行こう」では、平山徹(読売新聞社の現役記者)さんがご紹介されています。平山さんいわく「当初千ヶ寺を目指して全国の日蓮宗寺院を参拝していたが、すでに5、6年前に達成し、現在は二千ヶ寺に向けて参拝中(十一月一日現在で1889ヶ寺)」とのこと。これも目に見えない大きな功德となること間違いありません。話を三十番神様の南真也さんに戻します。彼と一緒に開眼入魂のお参りをさせて頂いたと、年齢はまだお若いのに、お経は達者で、御祈祷のお経

にも私について唱えられ驚きました。聞けば、両親も祖父母も大変信仰熱心な家柄で、彼は幼い時からお仏壇に手を合わせる事が生活の一部となつて、知らず知らずのうちにお経を覚えていたとのことでした。親の背を見て育つ子供。現代は核家族化が進み、お手本となる親の背を見る機会が少ない時代への示唆がここにあります。

ご縁というのは不思議なものです。冒頭にご紹介した仏師・馬淵憲峰師は、なんと!この南真也さんの母方の親類に当たる親戚関係の繋がりがあったのです。何と不思議なご縁なのかと、ただただ驚嘆するばかりでした。まさに仏縁というべきか、人智を超えた目には見えない糸で私達は結ばれ、引き合わされている事を再確認させられた出来事でした。ここに改めて仏縁の深さと三十番神様の尊さに、合掌申し上げた次第です。

